

別記様式第11

平成22年度地域木造住宅市場活性化推進事業費補助金成果報告書

1. 事業名

茅葺き屋根の工法の効率化と新築住宅への導入促進及び山村景観の保全

2. 事業実施期間

平成22年6月11日 ～ 平成23年2月28日

3. 事業主体

特定非営利活動法人 山梨県歴史的景観形成重要建築物保存会
(通称：山梨家並保存会)

4. 事業の成果

■事業全体の内容

日本の景観に馴染む茅葺き屋根の普及のため、その工事費の低減や資材確保の容易さを図る実験的な試みをおこなった。

それぞれの取り組み内容における結果は下記をご参照いただきたい。

■取り組み内容

<茅葺き実地研修（日本の茅葺きと外国の茅葺き）、茅葺き講演会>

目 的：「日本の茅葺き」と「外国の茅葺き」の両者において工期や茅の使用量、機能性や見た目を比較する。

実施内容：「日本の茅葺き」と「外国の茅葺き」を比較するために、双方の工法を用い実際に茅葺き作業を行い、双方の数量など比較した。また、講演会を開催し、日本の茅葺きとヨーロッパの茅葺きの違い、ヨーロッパの茅葺き工法について、茅葺き職人や一般の方々が学ぶことができる場を提供することができた。

成 果：比較一覧

手 間：職人（日本の茅葺き）×約0.3＝（ヨーロッパの茅葺き）

手元（日本の茅葺き）×約1＝（ヨーロッパの茅葺き）

茅の使用量：（日本の茅葺き）×約0.95＝（ヨーロッパの茅葺き）

機 能 性：（日本の茅葺き） → ・気密性が小さい

（ヨーロッパの茅葺き） → ・気密性が高い

見 た 目：（日本の茅葺き） → 外観・・・茅面の露出

内観・・・茅及び屋根下地（丸太、竹など）の露出

（ヨーロッパの茅葺き） → 外観・・・茅面の露出

内観・・・野地板の露出（一般的な住宅と同じ）

防火性：(日本の茅葺き) →屋根面は外部及び内部に渡り可燃性の茅が露出しているため、外部及び内部の両方の出火において火災の心配がある。

(ヨーロッパの茅葺き) →屋根面は外部は茅が露出しているが、内部は野地板を貼った上に茅を葺いているため露出していない。また、野地板と茅の間に防火ボードを挟みこむことが可能となり、内部からの出火に対して茅に火炎が燃え移るまでの時間を稼ぐことができる。

比較のまとめ：

茅葺き工事に関しては、ヨーロッパの茅葺きの方が手間の掛からない工法であること、気密性の高い居住空間をつくることができ、火災への対応も可能であることがわかった。また、外観は日本の伝統的な茅葺きと大きな差異はなかった。

現在の住宅は「高气密高断熱化」を求められることが多い。ヨーロッパの茅葺き工法は気密を取れるため、新築住宅にも無理なく取り入れることができる工法である。ヨーロッパの茅葺き工法は、現代の住宅機能を満たした上で茅葺きのある風景を造りだしていくことができる工法である。

<茅材の確保(茅場と茅保管庫の整備)>

目的：茅(ススキ)を地域で育成し、地域で保管することにより輸送コストを削減することができ、茅葺きの工事費の低減にも大きな役割を果たす。

実施内容：茅場の整備と茅の保管庫の建築

成果：地域の中に茅場と茅の保管庫を整備することができた。茅場については、長年ススキが生えたままの状態になっていた空き地を茅場とするためにススキを全て刈り取り、来年の秋には茅として利用できるススキが生える状態へと整備することができた。今年の秋に刈り取る茅も保管庫へ保管し、地域内にある茅葺き建物の修理に備えて蓄えることができる。

■事業実施の様子

<茅葺き実地研修(日本の茅葺きと外国の茅葺き)、茅葺き講演会>

○日本の茅葺き



屋根下地(丸太と竹)



茅を屋根下地の竹に固定
針金で縫うように縛り付け、この作業には2人(針受けと針返し)必要



職人が横一列に並び、
下から順に葺いていく



棟づくり

○ヨーロッパの茅葺き



小屋見上げ面

垂木と化粧野地板が見える



屋根下地

化粧野地板の上に防火ボード、その上に合板、防水シートを貼る



屋根下地

防水シート貼り完了、この上から茅を縛るためのビスを打つ



茅の固定

下地の合板にビスを打ち込み、横に渡した鉄筋棒と茅を縛り付ける、1人で作業可能、場所を選ばずビスを打ち込める

○日本方式とヨーロッパ方式の茅葺きの外観



日本方式の茅葺き



ヨーロッパ方式の茅葺き

○茅葺き講習会の様子



一般の方から職人まで、多数の参加があり、多様な茅葺きの工法について理解と関心を高めることができた。

<茅材の確保（茅場と茅保管庫の整備）>



整備前

何年もの間刈り取りされていなかったため、茅としては利用できないススキであった



整備後

ススキを全て刈り取った、今年の秋には茅として利用可能なススキが育成すると予想される



茅保管庫の建築



茅保管庫内部

イベントで刈り取った茅を収納

<各種イベント開催>



木組み体験会

（ヨーロッパの茅葺きの屋根下地製作時に実施）



茅葺き体験会



茅刈り体験会

<今後の展開>

本事業ではそれぞれの取り組みと合わせてイベントを開催した。特にこどもたちに多くの参加を求め、木や茅に触れ、大工や茅葺き職人との交流の場を提供することができた。次世代を担うのは今のこどもたち。こどもたちに伝統的な建築やその工法に興味をもってもらうことは次世代へ伝統木造建築を伝えることに繋がる。

今後もこどもたちへ向けたイベントを積極的に開催し、次世代へ伝統的な木造建築を伝承していく一旦を担いたいと考えている。